



裁判の木

金田園武

96 P 7

無言電話が切れて

少女の扉がすうーと肉まると

能面ののっぺらぼう男が

目を血走らせ

押したり引いたり

こじ開けようとする

冷たい音がぞくぞく

少女の背後へ突き刺ってくる

思いやりの森なんて知らぬ男は

ナイフ光らせ

心とえぐって牛玉にとって

空き瓶のようにな

海へ捨てたのだ

裁判官よ

このやり場のない奴を

